



①②③多くの女性をはじめ、男性のリフォームアドバイザーも活躍している。④リノベーション(大型リフォーム)事業も強化。夫婦の時間を楽しむ、シニア世帯向けプラン。⑤親子のふれあいを大切に、子育てファミリー世帯向けリノベーションプラン。⑥営業、設計担当が集まり、最適なリフォームプランについて検討を重ねる。

多様な人材の力を輝かせる体制で お客様の期待以上のリフォームを実現

住まいに対する意識に変化 リフォームへの関心高まる

修繕を中心としたイメージから、今を快適に過ごすためのリフォームへ。お客様の意識の変化にともない、住まいのリフォームに対する関心も高まっています。日本一多くのオーナー様を持つ積水ハウスのリフォーム事業を担う私たちの役割も増し、提案の幅も広がってきました。家族構成やライフステージの変化に合わせた間取り変更や内外装のリフレッシュ、構造や環境性能を考慮したプランなど、お客様のさまざまなご要望に応じたリフォームの企画・設計・施工を行っています。

自分のプライベートな経験や生活者としての視点などを生かせるのが、リフォームの仕事です。そのため、当社では多くの女性がリフォームアドバイザー(営業職)として活躍しています。年齢層や前職も実にさまざまで、育児や家庭と両立しながら頑張っている人も少なくありません。また最近では、男性の社会人採用も増加。メンテナンスや外装関連といった

得意分野を持っている男性も多く、お客様への新たな提案につながったり、社員同士が刺激し合えたりといった効果も生まれているようです。

長く仕事を続けるなら 大切なものを見失わずに

私が社会に出て働くことを決意したのは、32歳の時。未経験からのスタートでしたが、二級建築士やインテリアコーディネーターの資格を取得したことで専門知識も増え、自信を持って仕事ができるようになりました。リフォームは、目に見えるカタチだけを変えるものではありません。子どもとの会話が増えたり、夫婦で趣味を楽しんだり、健康的な生活を送るようになったりと、お客様の暮らしがより充実したものになる。そんなヒントを与えられる提案がお客様の満足につながり、その達成感が次の仕事へのモチベーションになっていくのです。

そして、女性が長く仕事を続けていくためには、自分にとって大切なものを見失ってはいけません。

私の場合、それは家族との時間でした。プライベートも大切にしたいから、仕事に集中的に取り組むことができる。そうすることで、家族や周囲のサポートを得て、キャリアアップを図ることができたと感じています。

積水ハウスグループでは、女性の成長と活躍を一つの軸として、「ダイバーシティ経営」を推進しています。お客様の要望をもらさずくみ取り、期待を上回るリフォームを実現していくためには、多様な人材がそれぞれの力を存分に発揮できる体制や環境づくりが必要です。私自身の経験を糧に、社員一人ひとりの、そして営業所全体のモチベーションを高め、リフォーム事業のさらなる成長につなげていきます。



りん 凛と、笑顔で、輝く

自分らしさを力にし、キャリアアップを目指す
積水ハウスの女性たち。
住まいづくりのプロとして活躍しています。



時枝 光恵

積水ハウスのリフォーム株式会社
業務役員 神奈川南営業所長

ときえだ・みつえ / 専業主婦から転身。リフォームアドバイザーとして経験を積み、2009年7月から社内初の女性所長として活躍。14年3月、業務役員に就任。



女性が活躍できる機会と環境整備を推進する企業として、東京証券取引所と経済産業省が選定する「なでしこ銘柄」。積水ハウスは、2013年2月に住宅・建設業界で初めて選ばれ、15年3月に再び選定されました。



積水ハウスは「日経ウーマノミクス・プロジェクト」を応援しています。

日経ウーマノミクス・プロジェクト

お客様の言葉の奥にある思いを カタチにした住まいづくりを提案

どうすればできるか そのために何をすべきかを追求

積和建設は、積水ハウスの施工部門を担う施工会社として設立され、現在では高い施工力や提案力をベースに、新築住宅の建設をはじめ、在来木造住宅やマンションのリフォーム、エクステリア事業など、地域に密着した総合建設業を展開しています。私は、設計やリフォームコーディネーターの経験が活かせると考え、4年前に転職しました。

当時、高知ではリフォームを主に手掛けるハウジング事業が始動したばかり。私自身、本格的な営業はほぼ初めてで、全てが手探りの状態でした。その反面、一から作り上げていく面白さがあり、自分で考え、工夫する力が身に付いたと思います。構造的にリフォームが難しいケースに対して、「できない」と諦めるのではなく、「どうすればできるか」を設計や現場監督などと相談。工事や資金計画など自分の知識不足を感じる分野に

関しては、営業の先輩にアドバイスをもらったり、様々な研修や勉強会に参加したりしながら懸命に学び、自分の力と自信にしていきました。

お客様の生活スタイルや 気持ちをも変えるリフォームを

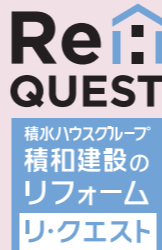
私がいつも心がけているのは、お客様が何を望んでいるのか、言葉の奥にある思いを聞き取り、そのポイントを明確に捉えることです。生活の中で感じている不便さや悩みを整理し、どこをどう変えればそれらが解消できるかを徹底的に検討。そして、キッチン周りや収納棚の高さなど、お客様が気づいていない細かな部分のアイデアも加え、設計プランをご提案します。また、補修や耐震工事などの必要性についても綿密に調査し、安心してリフォームに臨んでもらうことも重要な役割です。

「毎朝、自分で作ったヨーグルトを夫婦で食べるようになった」「新空間に合うインテリア選びも楽しく、

若返った気分」など、生活スタイルや気持ちまでもプラスに変えるリフォームの完成は、私自身にとっても大きな喜びです。「お客様に良かれ」のスタンスで、常に前向きに業務に取り組んできたこと。その一つ一つの努力が人と人のつながりを生み、全国トップクラスの受注実績へとつながったのだと思います。お客様の満足度をより高める提案ができるよう、これからも新たなチャレンジを続け、自分自身もさらに成長させたいです。

積和建設のリフォーム新ブランド “Re:QUEST”誕生

積和建設は、リフォーム・リノベーション事業のさらなる強化を図るため、全国統一のリフォームブランド“Re:QUEST”（リクエスト）を制定しました。「しかたなくリフォーム」から「したくなるリフォーム」へ、をキーワードに、様々なテーマに沿ったリフォーム&リノベーションを実現します。



積水ハウスは「日経ウーマノミクス・プロジェクト」を応援しています。

Q 日経ウーマノミクス・プロジェクト



りん
凛と、笑顔で、輝く

自分らしさを力にし、キャリアアップを目指す
積水ハウスの女性たち。
住まいづくりのプロとして活躍しています。



梶原 史

積和建設四国株式会社
ハウジング事業所 高知店 店長
かじはら・ふみ / 設計事務所や工務店勤務を経て、2011年4月に営業職として入社。13年8月、店長に昇進。二級建築士、インテリアコーディネーター。

①②リフォーム前は、全体的に暗くキッチンも閉ざされたイメージだった。③和室スペースはトップライトを設け、開放的なキッチンに。④あえて配した段差、タイル張りフロアで空間に変化を。⑤「家で過ごす時間が楽しくなった」とお喜びのお客様と。⑥自作の名刺入れを添えるのも、好印象を持ってもらうためのアイデア。

NADE SHI KO 女性が活躍できる機会と環境整備を推進する企業として、東京証券取引所と経済産業省が選定する「なでしこ銘柄」。積水ハウスは、2013年2月に住宅・建設業界で初めて選ばれ、15年3月に再び選定されました。

日経ウーマノミクス プロジェクト



女性技術者のロールモデルとして 挑戦し続ける楽しさを発信

女性管理職候補者研修を受講 刺激が自己成長につながる

女性目線を生かした住まいづくりの提案だけでなく、女性の活躍による組織の活性化や成長にも積極的に取り組んでいる積水ハウス。女性管理職の育成や登用にも力を入れており、2014年には「積水ハウス ウィメンズ カレッジ」を開講しました。全国から選抜された管理職候補者を対象とした研修で、経営視点や問題解決力、変化対応力などを養成します。1年目は、経営管理、情報収集、問題解決などのビジネススキルを学習。2年目には



現場の課題解決に向けた企画を立案し、経営層へプレゼンテーションするという、2年間にわたるプログラムです。

現在、私は1期生として学んでいます。研修の内容はすべてが新鮮で、チームリーダーを務める支店業務でも役立つことばかり。今年4月には課長職に昇進し、マネジメント能力がますます問われる立場となっただけに、このカレッジでの学びは大きな力になっていると感じます。また、全国で活躍する女性との情報交換やネットワーク構築などを通し、女性社員全体の底上げにつなげていきたいとも考えています。

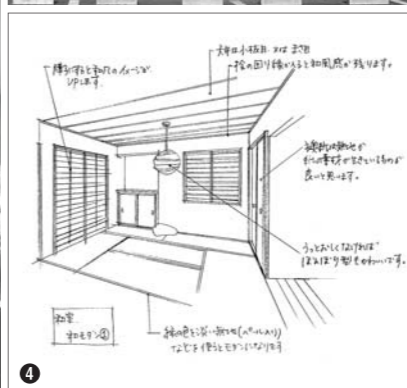
お客様の日常を導き出し それを形にするのが設計

設計士として自分のカラーがないと悩んだり、自信を失いかけていたりしたこともあります。そんな時に心の支えとなったのが、お客様との出会いであり、

この仕事が好きだという思い。初めて設計を任された住宅展示場に気に入ったお客様から、ご自宅の設計を依頼されたこと。難関とされる社内資格「チーフアーキテクト」に挑戦し、取得したこと。そうした一つひとつの努力の積み重ねが自信となり、新たな意欲を生み出してきました。

設計の仕事は、お客様の日常を知り、それを形にすることです。朝食は家族一緒に取られるのか、リビングでは主に何をしてお過ごされるのかなど、何気ない会話から導き出した日常の一場面、一場面を紡いでいき、それを設計図として表現します。それぞれの家族にそれぞれの日常があるように、住まいづくりの答えも無限大。だからこそ、お客様の思いに寄り添いながら、心地よい日常の舞台となるプランをご提案することが大切なだと考えています。

今後の目標は、先輩たちの身近なロールモデルとして、仕事のやりがいや挑戦し続けることの楽しさを伝えていくこと。そして、女性がより一層活躍できる環境づくりの役に立てるよう、頑張っていきたいです。



凛と、笑顔で、輝く

自分らしさを力にし、キャリアアップを目指す
積水ハウスの女性たち。
住まいづくりのプロとして活躍しています。



徳田 有里

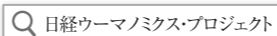
積水ハウス
多摩支店 設計課

とくだ・ゆり / 戸建住宅を中心に、各種建築物の設計を担当。2015年4月、課長職に昇進し、チームリーダーとして後輩の育成にも努める。一級建築士、社内資格チーフアーキテクト。

①「積水ハウス ウィメンズ カレッジ」の講義は年5回。会場は受講者たちの活気に満ちている。
②③ 初めて設計を任された住宅展示場。緑を大胆に配した独創的なプランは好評を博した。
④ 素材やイメージなどを描き込んだパースを用いて、お客様に提案。⑤⑥ 仕事の楽しさ、やりがいを実感する毎日。自然と笑顔も増えた。

NADE SHI KO 女性が活躍できる機会と環境整備を推進する企業として、東京証券取引所と経済産業省が選定する「なでしこ銘柄」。積水ハウスは、2013年2月に住宅・建設業界で初めて選ばれ、15年3月に再び選定されました。

日経ウーマノミクス プロジェクト 積水ハウスは「日経ウーマノミクス・プロジェクト」を応援しています。



積水ハウス株式会社

本社 / 〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号 梅田スカイビル <http://www.sekisuihouse.co.jp>

〈企画・制作〉
日本経済新聞社クロスメディア営業局

広告